

## ■アマルガムってなに？

アマルガムは健康保険の適用材料として認定されており、一般的に使用されてきました。以前は、広く普及していたアマルガムですが、70年代をピークに、近年では使用量は減少しています。現在でも保険が適用するので、医院によっては使用される場合もあるようですが、アマルガムの安全性を疑問視する声もあがっています。

これはアマルガムの中には**約50%の水銀**が含まれているためです。そして人体にとって危険なことに、**アマルガムはお口の中で劣化し、腐食し続ける**のです。

## ■じゃあ、アマルガムは危険なの？

アマルガムの歴史は古く、かつては、ほとんどの歯科医院で一般的に使用されていました。今でも、保険適用もありますから、従来同様、使用されている歯科医師もいます。事実、手軽で使いやすい材料ではありますし、また、水銀が神経に作用するため、痛みを吸収してくれる役割があることも確かです。

しかし昔、傷薬としてよく使われていた、いわゆる「赤チン」も、痛みを抑えるために水銀が含まれていましたが、水銀の害を懸念して**現在では使用されることはありません**ね。歯科でのアマルガム使用の減少も、ちょうど同じ時期にあたるのです。

現在では、金属アレルギーの原因の一つとして問題視する声も上がっています。

子供のころアマルガム充填

大人になってから・・・

パラジウム合金 + アマルガム (歯の詰物)

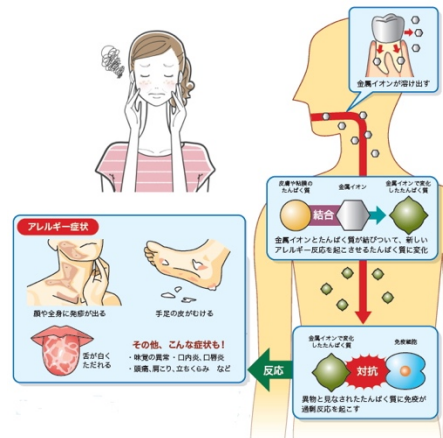
ガルバニズムにより溶け出し  
耐性が破れアレルギーを発症



## ■虫歯でなくても治療したほうがいいの？

虫歯や金属アレルギーがなければ、治療する必要はないでしょう。しかしアマルガムはやわらかい金属のため、小さい亀裂などが入っていることもあり、中が虫歯になっているかどうかは、見るだけやレントゲンではわからないことも多いです。痛みに関しても水銀による神経毒のため虫歯になっても痛みが出ないことも多く、痛みがないといっても虫歯が進行している可能性は否定できません。もちろん虫歯でないこともあります。

ですから、気になるという方はアマルガムを除去したほうがよいかもかもしれませんね。



## ■アマルガムに代わる材料は？

現在では充填材料もさまざまな種類が開発され、アマルガム以外にも優れたものがたくさんあります。当院では、おもにコンポジットレジンを使用し、アマルガムを除去後充填するようにしています。

アマルガムの下に虫歯が大きい場合は、金属の詰め物をしたり、場合によっては神経を取らなければならないこともあります。

## ■アマルガムの除去とレジンの充填



「術前」

左側が、現在良く使われる金パラ合金、右側がアマルガムです。色の違いが分かりますか？



「術中」

アマルガムのやり直しだけを希望されたので、アマルガムだけを除去しました。



「術後」

除去後、コンポジットレジンを充填しました。見た目もきれいになりますね！

お大事になさってください。